

石垣現地説明会資料

名古屋城の石垣

名古屋城の石垣は、本丸・二之丸・西之丸・御深井丸^{おふけまる}を中心として築かれており、三之丸を含む城全体での総延長は約 8.2 kmです。高さは、天守台以外の部分が 5.0~13.0m、天守台が東側で約 12.5m、西側と北側で約 20.0mです。

石垣は、徳川家康の命で、西国を中心とした 20 大名による公儀普請^{こうぎふしん}（天下普請）によって築かれました（図5・6、表1）。各大名間には石垣を積む技術には差異があったようで、わずかな差ではありますが違いが見て取れる部分があります。

石垣を含む普請（土木工事）は、慶長 15 年（1610）6月3日より根石置きが始まり、8月には加藤清正が天守台の石垣を完成させ、9月には本丸・二之丸・西之丸・御深井丸の石垣がおよそ完成し、大名たちが帰国したとの記録が残されています。

石垣に使われている石には様々な印が刻まれています。これらの印は、刻印又は刻紋と呼ばれ、石垣を築くことを命じられた諸大名が、自分の選んだ石を他大名の石と区別するために刻んだ目印などの意味があったと考えられています。その他にも、石を割る際（図1）に刻まれた「矢穴」も多く残されています。また、現在修復工事を行っている本丸搦手馬出^{ほんまるからめてうまだし}周辺石垣では、天和期の積み直しの際に書かれたと考えられる墨書^{ぼくしよ}も確認されています。

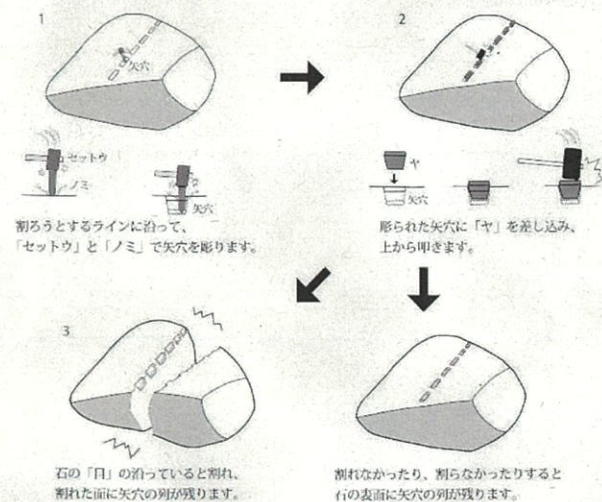


図1 石の割り方

ほんまるからめてうまだし 本丸搦手馬出 周辺石垣修復工事の概要

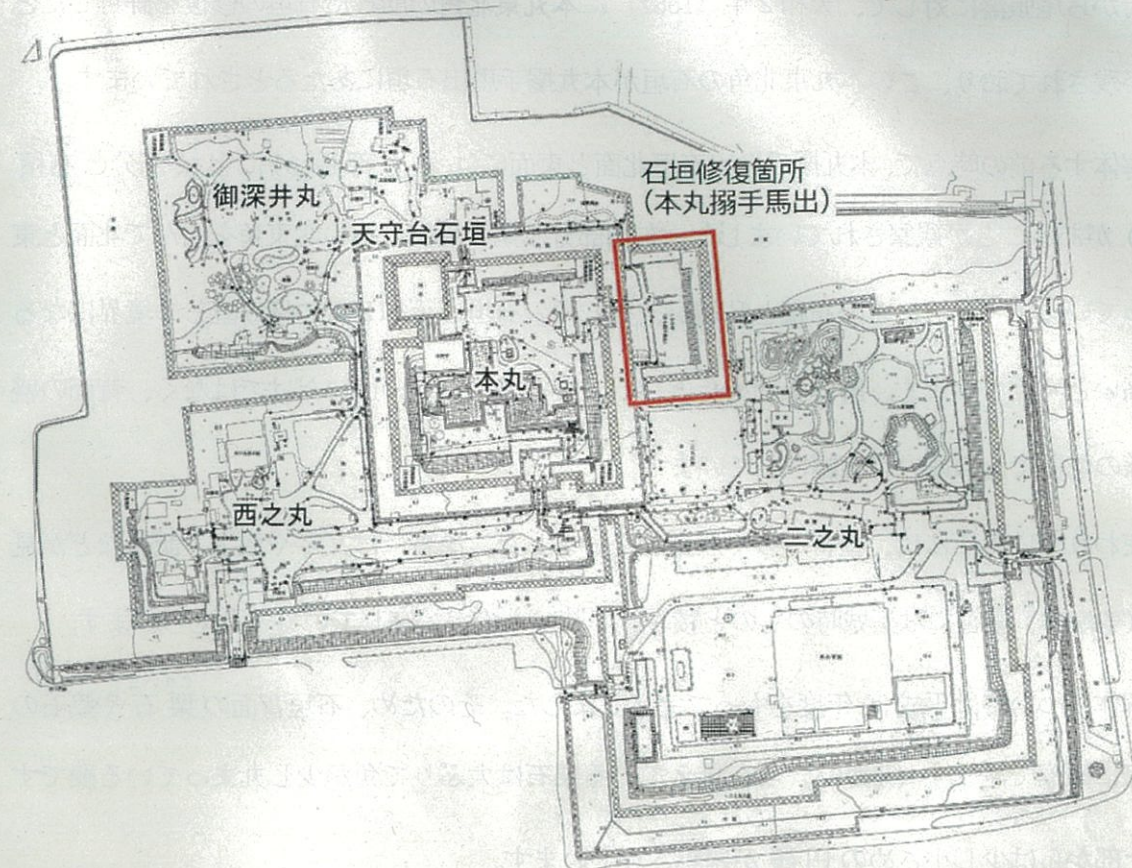


図2 搦手馬出位置図

本丸搦手馬出：搦手馬出は本丸の東部に位置する（図2 四角部分）。

南北約 94.3m × 東西約 51.8m × 高さ約 12.5m（空堀部）、約 14.2m（水堀部）

普請担当大名：浅野幸長（紀伊藩）、黒田長政（筑前福岡藩）、田中忠政（筑後柳川藩）、山内忠義（土佐藩）、蜂須賀至鎮（阿波徳島藩）、生駒正俊（讃岐高松藩）、鍋島勝茂（肥前佐賀藩）（図6 参照）

修復工事原因：石垣の下方が前に迫り出し、崩落の危険性があったため（写真1、2）

修理工事面積：約 1500 m²（東面及び北面石垣）

解体石材数：約 4000 石

本丸搦手馬出石垣の解体に伴い、元御春屋門の北側石垣についても解体を行った。

調査で確認されたこと

江戸幕府から尾張藩に対して、天和2年（1682）に本丸東北角の崩れた石垣の修復を許可したという史料が残されており、この本丸東北角の石垣が本丸搦手馬出石垣にあたとされています。

石垣を解体する前の時点で、本丸搦手馬出石垣北面と東面には築石部(図3)に乱積部分と布積部分(図4)があることが観察されていました。布積部分は搦手馬出石垣の北東角を挟んで北面と東面に広がっています(図7)。この布積と乱積が、築城期の石垣と天和2年の積み直しの境界になる可能性が高いと考えています。解体を進めたところ、築石の積み方の違いだけでなく、背面の盛土でも同様の位置で土の違いが確認されています。

石垣に使われている石には、墨書が多く残されていました。墨書には文字や数字、記号などが見られます(写真5)。墨書には築城時のものと積み直し時のものが混在していると考えられます。

石垣の解体については平成30年度をもって完了しました。そのため、石垣背面の栗石や築石の様子が明瞭に観察できます(写真6)。現在見えている栗石は大ぶりで角が少し丸まっている礫ですが、石垣上部からは少し小さめの円礫が確認されています。

また石垣前面に石材を敷き詰めています、これは石垣が前に迫り出してこないように地盤を補強するための「粋工」と呼ばれるものです。今見えているものは平成28・29年度に設置したのですが、平成26年度に石垣の根石を確認するために石垣前面の発掘調査を行った際、土中部分において石垣前面に築石大の石が置かれている状況が確認できました(写真11)。江戸時代にも粋工と同じように石材を利用して地盤及び石垣を補強しようとしていたと考えられます。また発掘調査では石垣の基礎である土台木(写真12~14)も一部で確認できました。(発掘調査個所については埋戻し済みで現在は見られません)

現在積み直しに向けて準備を進めています。

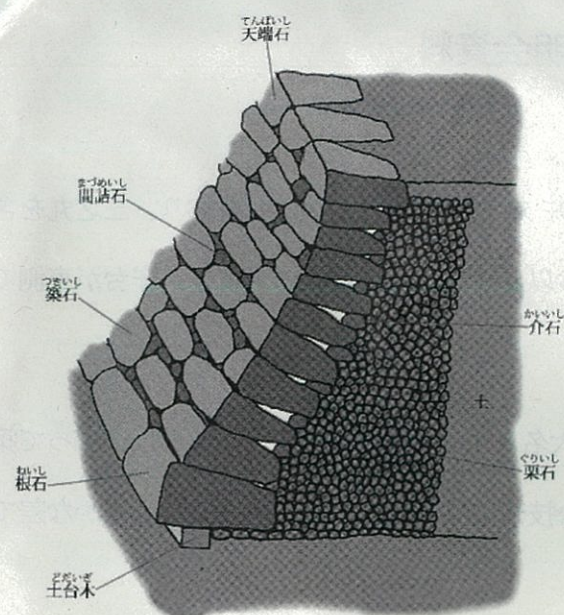
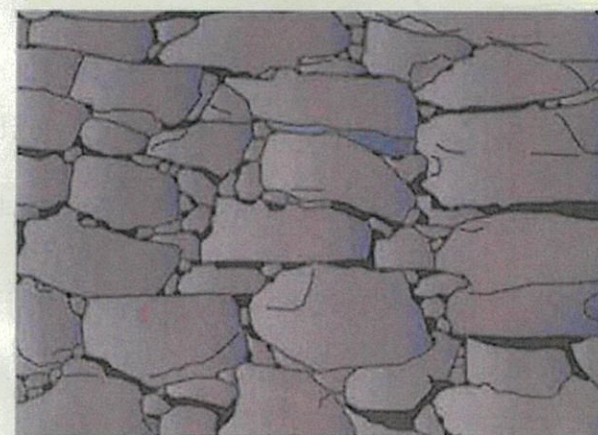


図3 石垣の構造
三浦正幸 2005『城のつくり方図典』(小学館) 所収図を改変

乱積



布積

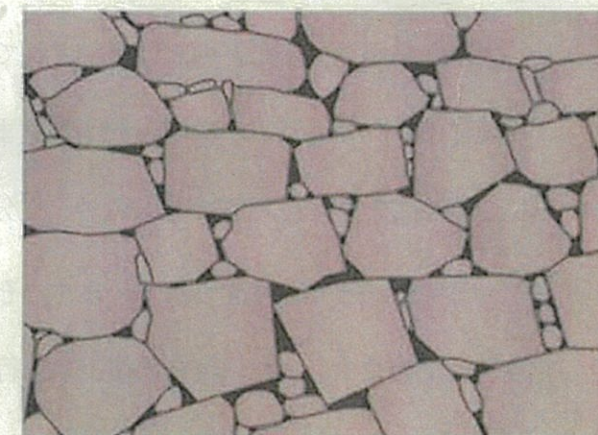


図4 石積みの種類 (名古屋城振興協会より)

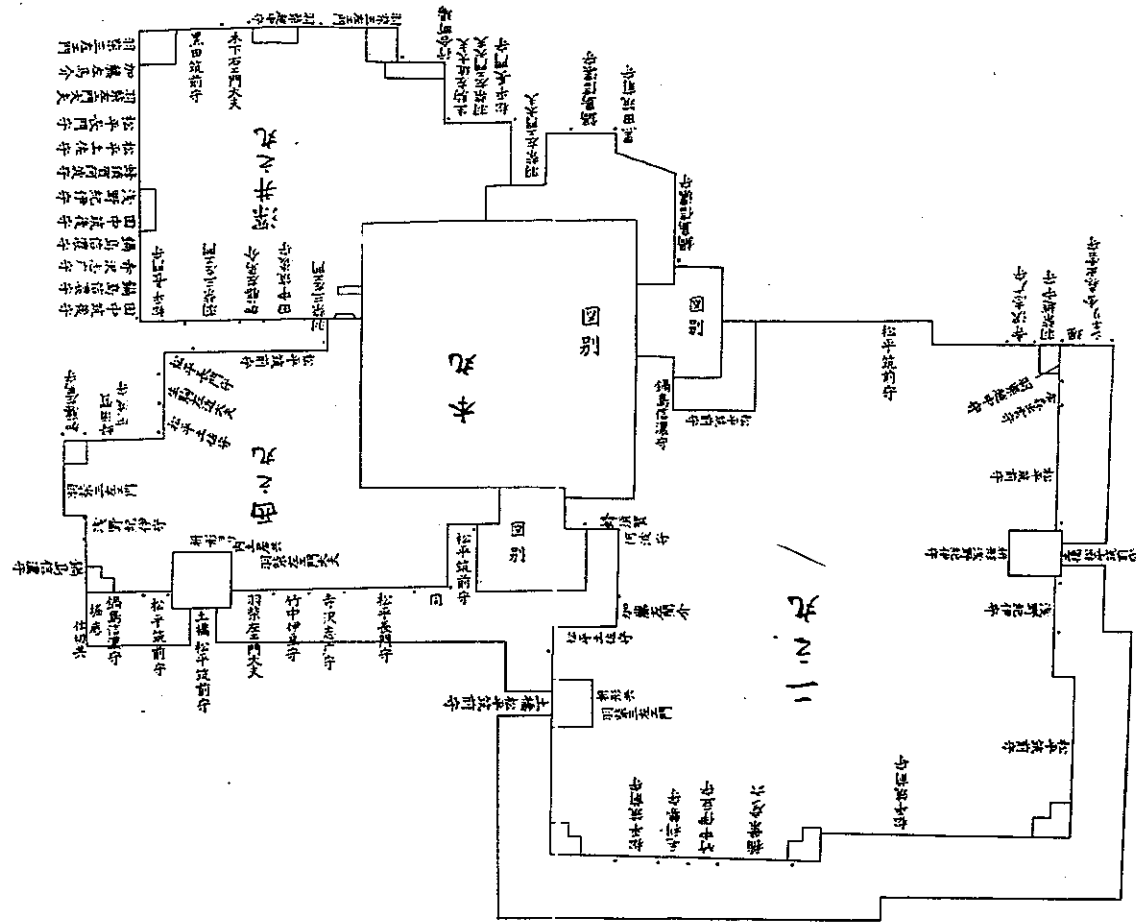


図5 丁場割大体図（『金城温古録』より）

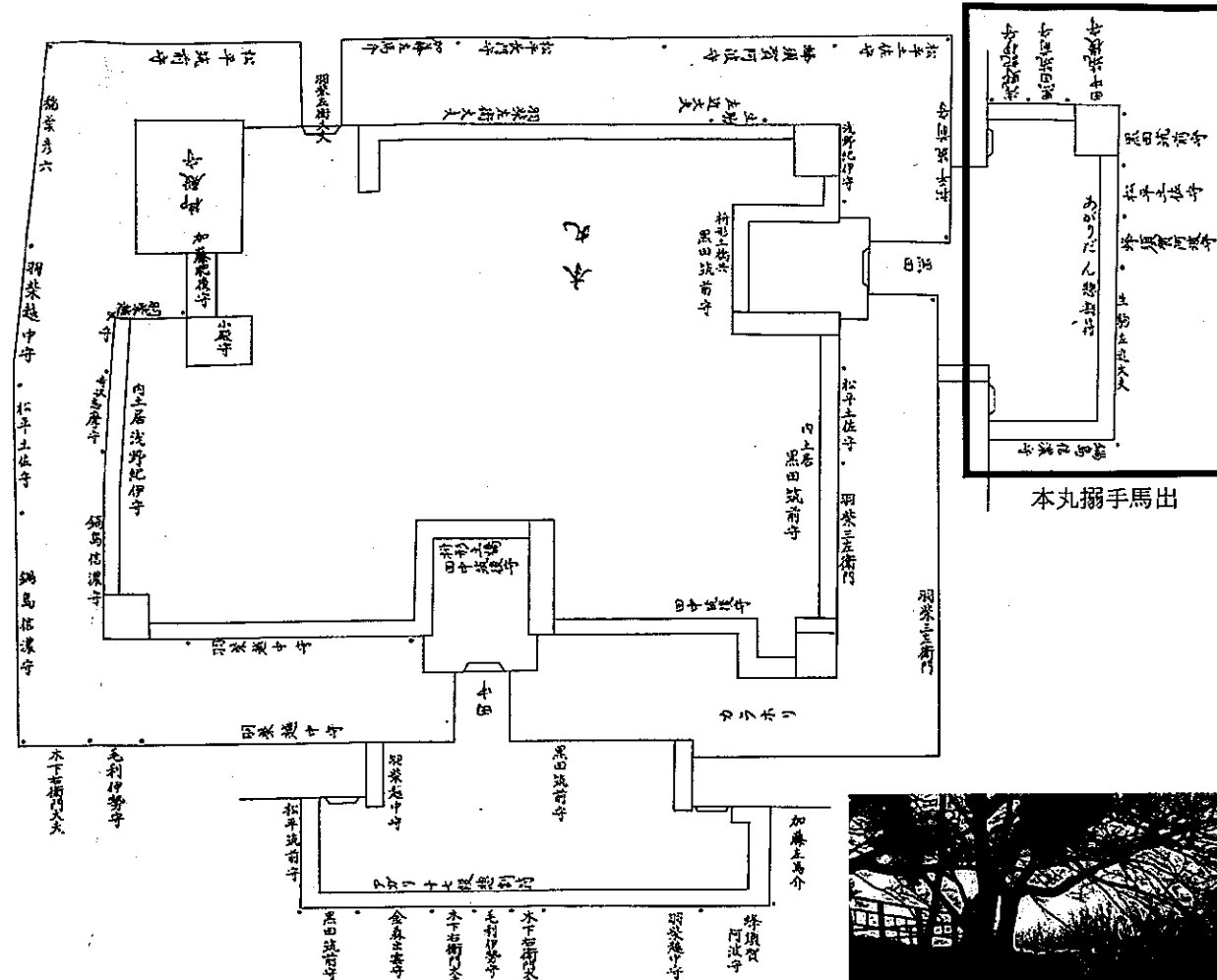


図6 丁場割大体図 本丸部分（『金城温古録』より）

表1 名古屋城築城の普請大名一覧

藩	大名	丁場割大体図での表記	居城の所在地
加賀	前田利常	松平筑前守	石川県
播磨姫路	池田輝政	羽柴三左衛門	兵庫県
肥後隈本	加藤清正	加藤肥後守	熊本県
安芸広島	福島正則	羽柴左衛門大夫	広島県
紀伊	浅野幸長	浅野紀伊守	和歌山県
肥前佐賀	鍋島勝茂	鍋島信濃守	佐賀県
筑前福岡	黒田長政	黒田筑前守	福岡県
筑後柳川	田中忠政	田中筑後守	福岡県
豊前小倉	細川忠興	羽柴越中守	福岡県
土佐	山内忠義	松平土佐守	高知県
長門周防	毛利秀就	松平長門守	山口県
伊豫松山	加藤嘉明	加藤左馬助	愛媛県
阿波徳島	蜂須賀至鎮	蜂須賀阿波守	徳島県
肥前唐津	寺澤広高	寺沢志摩守	佐賀県
讃岐高松	生駒正俊	生駒左近大夫	香川県
豊後臼杵	稲葉典通	稲葉彦六	大分県
飛騨高山	金森可重	金森出雲守	岐阜県
豊後日出	木下延俊	木下右衛門大夫	大分県
豊後高田	竹中重利	竹中伊豆守	大分県
豊後佐伯	毛利高政	毛利伊勢守	大分県

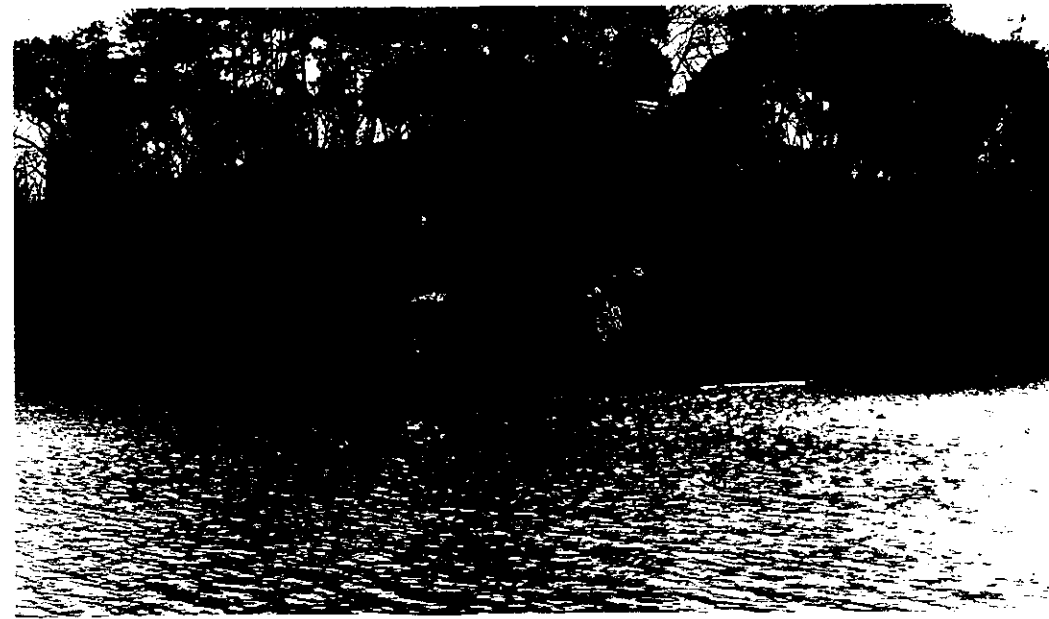
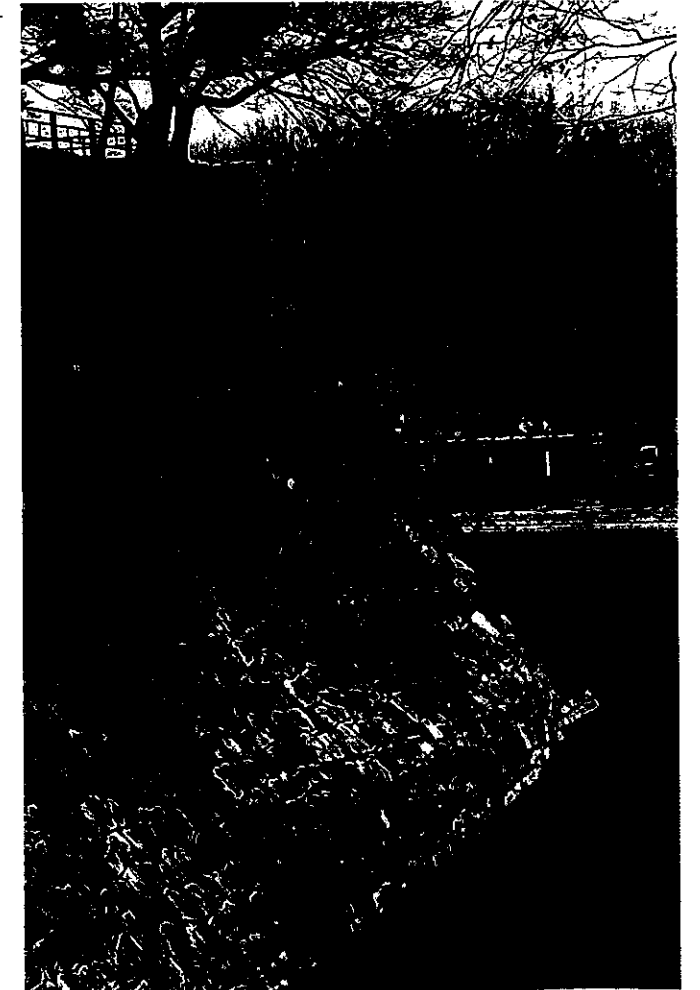
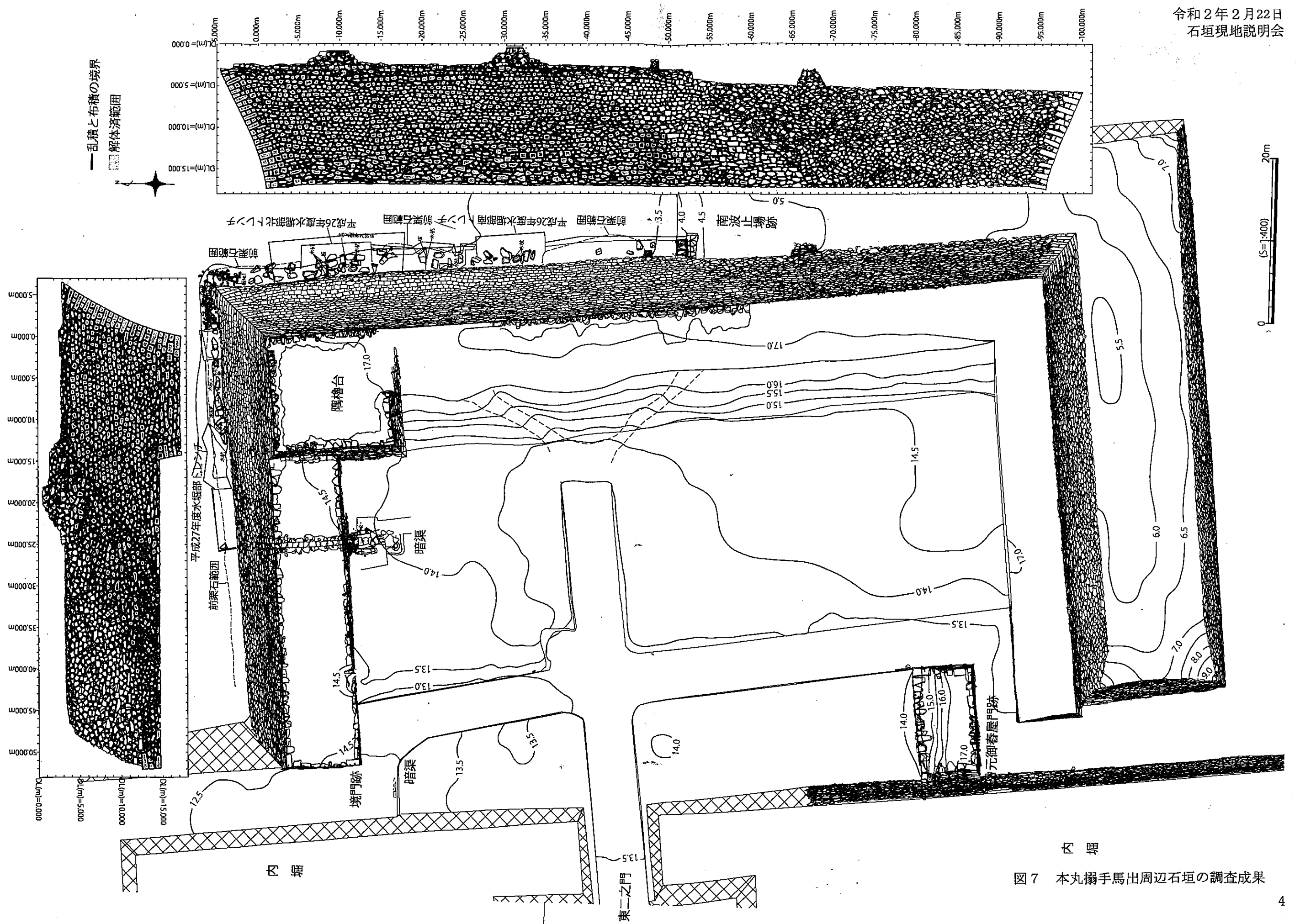


写真1 解体前の本丸搦手馬出石垣（北東から）

写真2 解体前の本丸搦手馬出石垣東面（南から）



区 堺
図7 本丸搦手馬出周辺石垣の調査成果



写真3 H30年度着工前（東面）（南東から）



写真4 H30年度着工前（北面）（北西から）



写真5 築石にかかれた墨書（四百五拾）



写真6 H30年度石垣背面状況（東面）（南から）



写真7 H30年度石材取り外し作業（東面）（北東から）



写真8 H30年度写真測量作業（東面）（北東から）



写真9 H30年度完了（東面）（南東から）



写真10 H30年度完了（北面）（東から）



写真11 H26年度石垣前面の石材（北トレンチ）（東から）



写真12 H26年度石垣基礎の土台木（北トレンチ）（北東から）



写真13 H26年度石垣基礎（北トレンチ）（東から）



写真14 H26年度石垣基礎（南トレンチ）（東から）